

令和 7 年度第 3 回府中市デジタル田園都市国家構想総合戦略会議 会議録

日 時：令和 7 年 7 月 28 日（月） 15：30～17：00

場 所：府中市役所 4 階 第一委員会室

会議要録	
次第	1. 開会 ○市長挨拶 2. 報告事項 ○第 2 期総合戦略の産業分野の取組の振り返り ○次期総合戦略で掲げる産業分野の施策の方向性と事業案 3. 協議事項 ○事務局報告事項に対する意見・質問 ○産業分野の取組の方向性について 4. 閉会 ○議長とりまとめ ○副市長挨拶
開会	
○市長挨拶	皆さんこんにちは。暑い中お集まりいただき、ありがとうございます。 府中市デジタル田園都市国家構想総合戦略会議も今日で 3 回目となります。 今まで皆さまから様々なご意見をお聞きした中で、一緒に方向性を 探りながら、会議を進めたいと思っています。 当初は若者、女性という部分を強調していましたが、その部分だけに限 らず、高齢者も加え誰もが活躍できるまちということで取り組んでいけ たらと思っていますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。 今日の会議においては、現行の総合戦略の成果と課題を振り返りつつ新 たな戦略、プロジェクト展開について皆さまの率直なご意見を賜りたい と思っています。 本日は産業分野における新たな取り組みを考えるための重要な会議とな りますので、皆さまのお知恵と経験をお借りして、府中市の未来に向け たよりよい戦略とプロジェクトを作り上げる場になることを願い、私か らの冒頭の挨拶とさせていただきます。
報告事項 第 2 期府中市総合戦略の産業分野の振り返り	

事務局	(説明は省略)
協議事項 次期総合戦略の産業分野の方向性に対する意見 など	
委員①	酪農業では、1人が飼育できる牛の頭数は30頭が限界と言われていますが、搾乳ロボットを導入することで、私自身、夫婦2人で120頭の牛を飼育しています。しかし、ロボット導入には最新型の畜舎などの基盤整備が必要で、それが難しい現状があります。府中市には個人経営の酪農家が6軒残っており、これは地域の強みです。しかし、家族経営では作業が多すぎて手が足りず、自由に動けない状況です。 ロボットの導入支援を拡充し、ヨーロピアンスタイルの個人向けロボットなどを活用すれば、地域独自のミルクや酪農関連製品（アイスクリーム、ジェラート、バターなど）のビジネス展開が可能となり、さらなる雇用や売り手の確保につながる可能性があります。このような支援があれば、地域の酪農業が活性化し、持続可能な農業につながると考えています。
委員②	農業のスマート化は既存の農家の生活向上に必要なのはもちろんですが、新規就農者をターゲットにした支援も打ち手の一つではないでしょうか。例えば、新規に酪農を始めたい場合、土地の確保や準備が課題となるため、既存の農家に弟子入りし、その後独立する仕組みが有効ではないかと考えています。また、技術を活用することも大切ですが、新規就農者が実際に活動できる場所の提供も必要です。実家でも以前は兼業農家として米を作っていましたが、現在は体力の問題から農地が遊休化しています。このような空いた土地を活用することで新規就農者の獲得や農業の活性化に役立つ可能性があるため、遊休農地の活用も含めた支援を検討していただきたいと思います。
議長	最近市内の耕作放棄地は増えているのでしょうか。
事務局	子細なデータは手元にありませんが、徐々に減少してきていると認識しています。
議長	府中市では定住促進が進められていますが、「府中ならではの」の取り組みとして、産業育成や働く場所の提供と定住促進をセットにした施策が必要だと思います。例えば、農業や酪農、ものづくりと定住を結びつけた形で働き手呼び込むことが効果的ではないでしょうか。 プライベートな経験として、勤め先の学生が府中市の大手鉄工メーカーに入社した際に最も喜んでいたのが社宅の存在でした。社宅があることで生活費を抑えながら新たな人間関係やネットワークを築ききっかけになると思いますし、住むことと働くことをセットで考えていくとよいのではないのでしょうか。

委員③	コワーキングスペースとは、また、リカレント教育とは、どういうものをイメージされているのかお伺いしたい。
事務局	コワーキングスペースは人が集まって仕事をする場所であり、そこに集まった人達が交流することで、また新しい何かを生み出せるような場所を想定しております。 リカレント教育とは企業の従業員が仕事とは別のスキルを身につけることで、それを既存の仕事にも生かすことができるような新しい研修を受けられる環境や取組をリカレント教育と考えております。
委員③	「府中らしさ」からは遠い印象を受けていますが、あえてこういったことを進められようとした理由が何かあるのでしょうか。
事務局	当時の府中市の総合戦略が策定された際、全国的なコロナの流行や国の動向を受けて、コワーキングスペースやサテライトオフィスの導入が検討されました。 これらの施設は、移住促進の一環として、企業での正社員勤務に加え、どこでも仕事ができる場所を求めるニーズに対応するものです。府中市内でもコワーキングスペースの設置について議論があり、それを戦略に盛り込んだ経緯があります。 また、リカレント教育についても当時、国や県が推進していた背景があり、総合戦略に組み込まれていると認識されています。
委員③	府中市は、小さな町でありながら、100 年企業をはじめとする長寿企業が 60 社以上存在するという産業的な特徴があります。その企業文化は、大きな成長や過度な拡大を目指すのではなく、自社の独自性を守りながら堅実に運営することに根ざしています。この「守りの姿勢」が、府中市の産業が長く続いている理由の一つです。 一方で、国や県の一般的な産業政策は、成長や拡大を前提とする傾向があります。しかし、府中市はその流れに流されるべきではなく、独自性を守り、町としてのアイデンティティを大切にした「府中らしい政策」を策定する必要があると考えられます。そうでなく一般論をもとに進めてしまうと福山の方が当然成果を上げていますし、こうした近隣地域の発展に埋もれてしまうことを危惧しています。そういう意味では流行や他の地域に倣うのではなく、本当に府中市に必要な政策をしっかりと見極めることが重要だと思います。
議長	企業の雇用促進についてですが、人材確保への支援強化は非常に重要だと思っています。ただ、そのために具体的に何をするのかをさらに調査する必要があると感じています。府中市には 100 年企業のような規模の小さい会社が多くあるので、例えば市が全体として社宅を確保するな

	ど、独自の支援策を考える方が雇用促進につながるかもしれません。
委員②	住みやすい町づくりの観点で、農業の推進について考えた際、地産地消を進めるか、ネットを活用して外部に販路を広げるかという選択肢があります。ただ、新しく農業を始めた人が地元の人に安く農産物を提供する仕組みを作るのも、府中らしい取り組みの一つではないかと思います。 地域内で農業のサイクルを回し、地場での活性化を図るアイデアとして、例えば各家庭で育てている野菜を持ち寄り、簡単に販売できる仕組みを作ることが考えられます。実家では父親が野菜を育てているため、昔のような無人販売所のような形で広がれば、「府中ではおいしい野菜が食べられる」といった地域の魅力につながるのではないかと思います。 地産地消を軸とした地域の取り組みは、府中の住みやすさや独自性を強化するための有効な方法の一つになるのではないかと感じています。
委員④	府中市内では、子育てが一段落した若い女性たちが、少ない資金を元に何か新しい挑戦をしたいと考えるケースが増えています。その中には、起業を目指す方も多くいらっしゃいます。そうしたときに、市の施策案にある起業支援にある市の施策にマッチした起業者の支援とはどういったことを指しているのでしょうか。 また、府中市と商工会議所が協力して設けた「シェアショップ」がさらに広がれば、少ない資金でも起業のハードルが低くなり、若い女性たちがよりチャレンジしやすくなるのではないのでしょうか。
事務局	現在も企業への補助制度はあり、個人が行う小規模な起業も対象となっています。しかし、雇用の創出という観点から、例えば雇用を生み出しやすい企業への支援をさらに拡充していくことが重要だと思っています。具体的には、府中市にサービス業を誘致するために、サービス業に対して特別な優遇措置を設けたり、他の業種よりも入りやすい条件を整えたりすることが考えられます。 また、この地域にどのような業種があればよいかという声をしっかり反映していける仕組みを作ることで、地域のニーズに応じた企業支援が可能になるのではないかと考えています。こうした方向性で制度を今後さらに検討していきたいと考えています。
委員⑤	女性に限らず幅広い年代の方々が新しいアイデアや製品の開発に挑戦したいというニーズがあると感じています。例えば、3Dラボを運営していると、一般の方から「こういう製品を作れないか」「試作してくれないか」という相談を受けることがよくあります。具体例としては、リタイ

	アされた 60 代の方から文房具の開発相談があったり、子供向けインソールの試作を頼まれたり、お土産物の製作相談があったりしました。ただ、販売先や具体的な進め方が分からないため、現実的な話になると意欲がしぼんでしまう方もいるのが現状です。こうした挑戦を支援する場や仕組みを作ることは非常に重要だと思います。 さらに、産業面に目を向けると、府中市では産業連係室が企業間の連携を進めているものの、仕事を外部から持ち込むことにはまだ十分に注力されていないと感じます。府中のものづくりの力を活かしながら、仕事が不足している企業に仕事を配分する仕組みが必要です。例えば、市が総合窓口のような役割を果たし、集客や外部の仕事をアセンブリ形式で受け、それを地元企業に振り分けるなどの取組を通じて活性化につなげることができるのではないかと考えています。 このような形で産業連係室を縮小するのではなく、むしろ拡大する方向で取り組むことが今の府中にとって必要だと感じています。これによって地域産業の活性化を図り、多くの企業や個人が新たな挑戦を続けられる環境を整えることができるのではないかと思います。
委員⑥	産学官連携について、特に企業と学生の接点を強化する必要性を感じています。府中市は「教育のまち」として、コミュニティスクールの歴史が深く、しっかりとした教育を行っています。特に中学生向けのキャリア教育が行われていることが強みです。現状では、高校生向けの合同説明会や成人式のような取り組みもありますが、もっと若い世代に目を向けて、中学生が産業について学び、自己発表できる場をさらに充実させていくことが重要ではないかと思います。 例えば、商工会議所内にある人材育成委員会では、キャリア教育の一環として、中学生が産業についてヒアリングを行い、自主性を発揮する場を作る取り組みを進めています。このような活動をさらに広げるためにも、商工会議所や委員会メンバーとの意見交換や交流を深めることが必要です。 さらに、こうした教育の中で「郷土愛」を育むことが大切だと思います。子供たちが地元に着愛を持ち、「府中で暮らしてよかった」と思えるような教育が行われれば、将来の U ターンや地元定着につながり、地域の活性化を後押しするはずです。このような方向性で産学官連携を進めることに期待しています。
事務局	キャリア教育については、各事業所にも協力をお願いしながら、中学生の段階からしっかりと意識づけを行っていくことが非常に重要だと感じています。さらに、兄弟やその周囲の年齢層といった幅広い世代にも働きか

	けを行うことで、キャリア形成や地域の産業に対する理解を深めていくことが必要だと思います。この取り組みを進めることが、地域全体の活性化につながると考えています。
議長	私はあまり中学生と接する機会は少ないのですが、高校生とは関わりがあり、最近の高校では「総合的な探究の時間」としてキャリア支援を行う取り組みが増えていると感じています。高校では主に進学先の大学選別に重点を置いていると思いますが、もう少し前の段階、つまり小学校や中学校で「世の中にはどんな仕事があるのか」ということを教えたり、自分の興味や関心を広げるようなキャリア教育を進めることが可能ではないかと感じています。 そのため、コミュニティスクール（CS）と連携しながら、府中市ならではの地域と密着したユニークなキャリア支援を行う仕組みが作れるのではないかと期待しています。このような取り組みができれば、地域の特性を活かした教育が進み、子供たちが多様な選択肢や地元への理解を深めるきっかけになるのではないかと思います。
委員⑦	まず 10 ページの表を見ると、中小企業の生産性向上などの KPI（重要業績評価指標）がいくつか示されていますが、1 桁台の数字が多く、対象となる事業者数が非常に小さい印象を受けました。これに関して、「規模が小さいからもっと頑張ってもらいたい」といった批判をしたわけではなく、むしろ、この取り組みを通じて得られた知見や成果、支援を行ったことで分かったことの方が重要なのではないかと感じています。たとえば、府中市の特性に合わせた行政支援のあり方や効果的な支援方法について、何か具体的な知恵や学びがあったのかどうか、その点について教えてください。
事務局	件数については予算との兼ね合いもあり制限されてしまっている面もあります。個別の取組に対する具体的なフィードバックについて、申し訳ありませんが今この場でお示しできるものはありません。ご容赦ください。
委員⑦	11 ページの広域での取り組みの方向性については、備後圏域のビジョンに基づいたものだと思います。ただ、府中市として主体的な連携のあり方を議論していく予定があるのかが気になります。全体でまとめただけで終わるのではなく、府中市が独自の意気込みを持って、積極的に連携していく姿勢を示していただきたいと感じています。特に、福山市の動きに埋もれてしまわないよう、府中市ならではの取り組みを進める必要があるのではないかと思います。 次に、14 ページについてですが、府中市の強みとして「多様なものづく

	り産業が集積している」とありますが、この「多様なものづくり」という言葉は非常に主観的だと感じています。「多様」と言うならば、具体的に何種類の産業があるのか、何千件の企業が関わっているのかといった客観的なデータを示すことで、強みとしての説得力を高めるべきではないかと思います。また、多様であることをどう活用するのかについても議論する必要があると考えています。たとえば、「多様であるからこそこういう取り組みをする」という具体的な施策を示せれば、より効果的だと思います。 さらに、14 ページに記載されている製品出荷額についてですが、これが KGI（重要目標指標）として設定されているとのことですが、その根拠が既に具体的に描かれているのかが気になります。現状の数字に対して、このような取り組みをしたらどう変化するのかといった具体的な計算があるのかを確認したいです。
議長	K G I の設定根拠と 2029 年度の製造品出荷額と農業産出額の設定の考え方について、事務局より説明していただけますでしょうか。
事務局	設定時にどういった計画で盛り込んでいるかは不明ですが、現状、製造品出荷額に関しては達成済みであり、農業産出額については目標との差異が 1.5 億円程度と認識しています。 当時この総合計画を設定した時の数値の根拠は確認できておりません。
議長	概ね達成できているようなので目標値を上げてもしよかもしれません。
委員⑦	目標値に対し右肩上がりで推移しているか、減少傾向の中で現状維持に努めているのか、そういった点も教えていただきたいです。
事務局	事務局側の都合で恐縮ですが、総合戦略において、目指すべき具体的な方向性や目標設定、いわゆる総合戦略における KPI について、今回の説明では詳細をお示しすることが難しかったという事情がある一方で、市の最上位計画である総合計画が 6 年目、7 年目に入ろうというタイミングであり、次期戦略を進める中で、総合計画の KGI である製造品出荷額や農業産出額を増やすことを目標として取り組む必要性があるという考えのもと、これらを記載しております。
委員⑧	少し私自身の経験をお話させていただきたいと思います。2022 年に会社に副業届けを提出し、農業に挑戦しました。そのきっかけは、創業昭和 8 年のコーヒー屋さんが「コーヒー豆を日本で作れないか」という課題解決に取り組んでいたことです。私自身もリカレント教育を活用し、大学で 6 次産業化について学び、資金が少なくても可能な商品開発に挑戦しました。 現在、農園が 3 年目を迎え、ついに初めての収穫を行い販売に挑戦して

	いますが、コーヒー一杯 2000 円と非常に高価で、実際に販売するためには課題が多い状況です。 この経験を通して分かったことは、新しいことに挑戦するには課題が山積みであり、国の助成金などの支援を受けてもすぐにはうまくいかないということです。ただ、地域の学校や大学、産官学の連携を通じて、地元の特産品や食材を価値あるものとして再評価し、多くの応援団を集めることで可能性は広がるのではないかと感じています。 まだまだ課題は多くありますが、諦めずに挑戦を続けていきたいと思っています。このような経験をもとに、府中市でも地元の農産物や産業を新しい価値として位置づけることで、地域の活性化につなげる取り組みが進められればと期待しています。
議長	とても興味深いと感じました。特に、2000 円のコーヒーという価格を聞いたときには「これは売るのが難しいだろうな」と思いましたが、その後の工夫のアイデア、例えば宿泊者限定で提供するなどの発想が素晴らしいと思いました。こうした「ひと工夫」や「ひとひねり」が重要であり、成功の鍵になるのではないのでしょうか。 そのためには、様々な人が繋がりを持って協力することが必要だと感じています。いろいろな人々が関わり合いながら、アイデアを実現していくことがポイントだと改めて感じました。
委員⑨	農業支援、企業の雇用創出、そしてふるさと納税返礼品についてお話をさせていただきます。農業の 6 次産業化支援については「どこを支援していくか」という点が重要だと思っています。私自身、前職で海外展開に携わっていましたが、生産者を海外の見本市に連れて行き、現地の様子を経験してもらうなどの取り組みを行いました。しかし、実際に海外から発注があった場合、生産者が対応できるのかという課題が浮き彫りになり、一定の規模がなければ 6 次産業化やブランド化は難しい面もあると感じました。 そのため、生産者だけでなく、加工業者や販売者など幅広いターゲットを支援する形にすることで、可能性が広がるのではないかと考えています。この点をぜひ検討していただきたいです。 企業の雇用創出について、府中市には 60 数社の 100 年企業があり、非常に堅実な経営をされている企業が多いことが特徴です。また、従業員を大切にされている企業が多いとも感じます。しかしながら、若い日本人男性の労働者がなかなか増えない状況が続いています。この課題に対して、外国人労働者の受け入れ環境整備は非常に重要で賛成していますが、それと同時に女性経営者や管理者層の育成にも取り組むべきではな

	いかと思います。 私が取引先でお会いした女性経営者の会社では、女性幹部や従業員が非常に多く、女性の中堅層が不足している府中市にとって、この育成は課題解決に繋がるのではないかと感じています。外国人労働者の受け入れ環境整備と同列に、女性経営者や幹部層の育成にも重点を置いて進めていきたいと思っています。 さらに、この企業支援に関連して、虫食い土地の問題についても触れたいです。用途地域の見直しや地方税の負担区分の見直しなど、税制面の優遇措置を含めて、住みやすい町を作るための長期的な解決策を検討する必要があると感じています。 最後に、ふるさと納税返礼品の開発の取り組みは非常に重要だと思います。私も府中市のホームページや返礼品を拝見しましたが、まだ改善の余地があると感じています。返礼品の製品開発だけでなく、それ以外の工夫も進めることで、より魅力的な形になるのではないかと思います。
委員⑩	外国人労働者の受け入れについてですが、備後圏域ビジョンの中でも課題として挙げられている部分があります。備後圏域の事業者アンケートを拝見しましたが、府中市としても同様の受け入れに関する課題が存在していると思います。そのため、地域全体でしっかりと連携し、府中市も積極的に関わっていくことが重要だと感じています。 また、今回の会議については、現行の戦略の成果や課題を深掘りし、次期戦略への柱や方向性を作ることが主な目的だと思います。その中でも特に「大学との協働による研究開発支援」に関しては重要だと考えています。府中市らしさを考える上で、地域の住民や企業のニーズをしっかりとキャッチして、企業のニーズにさらに寄り添った形での研究開発支援を強化していただきたいと考えています。
委員⑪	私は様々なことを考えながら、まずは「府中に住んでいる人たちのために何ができるか」という視点を大切にしています。今住んでいる人々を大切にし、彼らの声を聞いて実現できることを市全体で楽しみながら取り組む姿勢が重要だと思います。 例えば、知り合いで「チーズ工房をやりたい」という夢を持っている人がいます。その夢を市が応援し、みんなで盛り上げながら実現に向けて進むことで、地域に新しい価値や雇用が生まれるのではないかと考えています。同様に、コーヒー農園の話も非常にワクワクする内容でした。こうした取り組みが地域の魅力を高め、人々を繋ぎ、新しい出会いや交流を生むきっかけになるとと思います。

	私の保育所を卒園した園児さんですが、今大学生になり保育所を訪ねてきてくれました。「僕はおもしろいアイデアを持っている」と嬉しそうに話してくれました。こんな若者が府中市の企業のトップの方に出会う機会をもらい、夢の後押しをしてもらえたら本当にワクワクすると思います。若い人が地元で夢を追い続けることが出来ることで、雇用や地域活性化の促進につながると 생각합니다。 農業に関してですが、府中市にも休耕田や荒れ地が目立っています。家族が所有する土地を次世代でどう活用していくのかを話し合うことは大切だと思います。我が家でも同じ問題を抱えているのですが、若い世代が集まってその活用方法を考え、地域の農業や土地に対する愛着を育て、引き継ぐことのできる仕組みを作れば、新たな展開が生まれるのではないのでしょうか。 そして、独身の若い働き手に結婚して府中市に住みたいと思ってもらうためには、生活の安定や地域コミュニティへの所属が必要だと思います。例えば、企業が「今日は池田牧場でボランティアの日です」と特別休暇を提供し、他企業で働く若者が集まり、一緒に作業し、その後に食事や交流をすることで、新しいつながりが生まれるのではないのでしょうか。このような小さな楽しい取り組みが府中市内での人の繋がりを広げ、住んでいただくことにつながると 생각합니다。特別休暇には行政からのサポートが欲しいです。 福祉の分野では「こんなことに困っている」と相談された際に「できません」と答えるのではなく、「どうしたら実現できるか」と考えることを大切にしています。府中市の規模だからこそ柔軟に対応し、小さな声を聞いて可能性を探ることで楽しい地域づくりが出来ると 생각합니다。
委員⑫	今回、産業施策などの取り組みに関する確認や説明をいただきましたが、それらを踏まえた新しいプロジェクトが提示されている中で、課題の把握やニーズの収集がどのように行われたのかについてお聞きしたいです。 例えば、商工会議所との具体的なヒアリングや調査を通じて、課題を明確にし、新しいプロジェクトを裏付けるための具体的なデータや情報を収集することが必要だと考えます。今回の課題提示にあたって、どのような手法でニーズを把握されたのか、そして新規プロジェクトを進めるにあたり今後どのように具体的な施策に取り組む予定なのか、お伺いしたいです。 特に、産業に関連した施策では、商工会議所を中心とした取り組みが重要になってくると 생각합니다ので、具体的にどのような計画があるのかを

	教えていただければと思います。
事務局	今回の提案についてですが、まず市役所内で商工部門とのヒアリングを行い、企業が取り組むべきことや行政が支援できることを整理し、その観点から行政としての支援の方針や柱を検討しています。 さらに、市と商工会議所の間では毎年、地域のニーズやそれを政策に反映させるための協議を行うタイミングが設けられているとのこと。その中で、戦略の柱や取り組むべき項目を決定し、具体的に何ができるのかを協議の中で具体化していく形を考えています。 今回提示された案には、個別の具体的な取り組みも含まれていますが、それを実際に形にしていくかどうかについては、今後の戦略の最終的な策定段階で具体化を進めていく予定です。具体策については、商工会議所とも連携しながら話し合いを続けていくという姿勢です。
委員③	商工会議所との話し合いについてですが、基本的な方向性がずれてしまうと議論が進まなくなるため、早い段階で連携して話を進めたいと考えています。具体的な案として職業訓練について触れると、福山市で実施されている取り組みを活用し、広域的な視点で協力体制を構築するほうが現実的ではないかと思います。 次に、海外からの人材受け入れについてですが、日本の人口減少や経済成長がその背景にあるものの、「経済がすべてに優先する」という考え方には疑問を感じています。特に、小さな町では価値観の違いによる摩擦や問題が生じる可能性があるため、無条件に受け入れることは慎重に考えるべきだと感じています。大きな町では多様性を自然に受け入れられるかもしれませんが、府中のような小さな町では、経済の成長だけを優先する方針が「良い町づくり」につながるとは限りません。 また、私の会社でも海外の人材と一緒に仕事をする機会が多く、海外の拠点を持つ企業としてその必要性は理解しています。しかし、町全体として海外からの人材をどう受け入れるかについては、企業の都合とは別に、町の価値観や生活環境の在り方を考慮した慎重な議論が必要だと考えています。 つまり、経済的な視点だけで町を運営するのではなく、社会や地域の価値観に基づいたバランスの取れた施策が求められるのではないかと感じています。
閉会	
○議長 とりまとめ	今日の話聞かせていただき、皆様のご意見を踏まえながら、いくつか感じたことをお伝えします。 今回提示された新しい戦略の項目については、特に不要な提言が見当た

	らず、全体的に方向性として妥当だと受け止めています。ただし、多くの方の意見にもあったように、もう少し「府中らしさ」を取り入れて具体化する必要があると感じています。国や県が打ち出す方向性をそのまま受け入れるだけでは、他の地域との差別化が難しくなるため、府中ならではのひと工夫が求められると思います。 たとえば、15 ページの企業の雇用創出についてですが、府中には 100 年企業が多く、従業員を大切にする文化が根付いているという特徴があります。この特性をどう生かして、人材確保や企業支援を具体化していくかが重要です。単なる起業支援ではなく、具体的な取り組みを中心に据えた支援が望まれると感じています。 また、16 ページのふるさと納税返礼品や 17 ページの産学官連携についても、府中の強みであるコミュニティスクールとの連携や府中ならではのキャリア支援を設けることで、具体的な方向性を明確にしていく必要があると思います。さらに 18 ページの農業の高付加価値化についても、単に言葉としての「6 次産業化」ではなく、「どう府中らしく取り組むか」を具体化し、地域全体で考えるべきだと思います。 全体として、「誰が何をどうやるのか」という進め方を明確にし、市役所が単独で進めるのではなく、産業界や地域の住民を巻き込みながら、共同で進めていくプラットフォームを作ることが重要だと思います。幅広い意見を取り入れるためのディスカッションやブレインストーミングの場が必要だとも感じています。 以上、やや抽象的なまとめになってしまいましたが、今後の具体化に向けて多様な主体が協力し、府中市ならではの取り組みを形にしていくことを期待しています。本日の議論はここまでとさせていただきます。
○副市長挨拶	皆様こんにちは、副市長の平野でございます。本日はたくさんの貴重なご意見をいただき、1 時間では物足りないほど充実した議論だったと感じています。雇用確保に関して、学生へのアプローチの方法や子どもの頃からの取り組み、外国人労働者の受け入れなど、様々な視点から多くの課題が挙げられました。 市役所だけでは思いつかないような視点について、最後に議長もおっしゃったように、皆様のお知恵をお借りする場や体制をどのように作るかが非常に重要だと感じています。市役所としても、幅広い方々を巻き込みながら、協力して進めていきたいと考えています。 また、産業の発展を考える上で、「人が入ってきてコミュニティができること」「それがまちづくりにつながること」が非常に大切だと改めて認識しました。高齢者が増えるまちとしての課題も含め、これらのポイント

	を念頭に置きながら、具体的な取り組みを進めてまいりたいと思います。 今後とも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。
--	---